

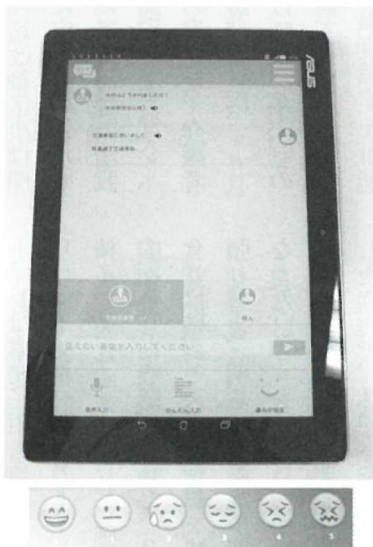
情報かわらばん『4ヶ国語自動翻訳機導入』の記事

4か国語自動翻訳機導入で、急増する外国人患者さんに対応

函館中央病院

函館中央病院（函館市）は、外国人旅行者が年々増加していることを背景に、タブレット型の自動翻訳機を導入し、外国人患者さんへの対応に役立てている。翻訳機は英語、中国語、韓国語、ロシア語の4か国語に対応し、会話を音声入力で翻訳するほか、あらかじめ組み込んだ文章や単語から文章化して表示することも可能。患者さんや家族と病院スタッフが対面式で活用する。

これまで英語の通訳は総務課の石川圭子さんが総合案内で行ってきたが、時間外に救急搬



4か国語に対応しているタブレット。下は痛みの程度を表すツール

送されるケースもあり、24時間の対応は不可能。「最近函館―台北間の直行便も就航した影響から中国語圏の観光客がさらに増加し、英語以外の通訳が課題となっていました。その矢先に翻訳ソフトが開発されたとの話があり、昨年試験的に導入することになりました」と総務課の梶原雄介課長は話す。

導入にあたり、外国人患者さんとのやりとりで想定される単語や文章を可能な限り抽出し、ソフトに組み込む作業を開始。どこがどのように具合が悪いのかを具体的に示せるよう、表示言語も詳細に検討した。痛みに関しては、6段階に分類された表情のイラストから選択することができる。

「これまで通訳をしてきた経験から、健康保険や支払い方法が治

療後に問題になることがあり、そのようなことも事前に確認できるよう、ソフトにやりとりの例を組み込みました」と石川さん。

タブレットの導入により、外国語がわからないスタッフでも安心して関わることが可能となり、同病院では自動翻訳機を2台に増やし、本格的に導入。現状では、外国人の子どもが旅行中に体調を崩し、活用するケースが多いという。「外来だけでなく、救急搬送されて入院に至るケースもあります。その際には、看護師が病棟でタブレットを活用しながら、適切な医療とケアの提供に努めています」（梶原課長）。

翻訳ソフトは100%正確に通訳する段階には至っていないため、今後の機器の更新も期待されている。